

地域福祉の充実をめざして、支える心のネットワーク。



赤い羽根共同募金



# 福祉ちば

2015

9

SEPTEMBER

編集・発行  社会福祉法人千葉県社会福祉協議会

No.167

特集

## 認知症カフェ「かさね」の取り組み



フィールドスタディ 地域の福祉活動

[銚子市] 船木地区社会福祉協議会

エールちば

地域で取り組む「福祉教育」

いきいきがやく 千葉大学環境 ISO 学生委員会

福祉の資格とわたしの仕事 社会福祉士 / 社会福祉協議会



# 特集 認知症の人も安心して暮らせる地域を目指して

## 地域みんなが集い、つながる一軒家 認知症カフェ「かさね」の取り組み



笑いヨガ

高齢化が急速に進む中、認知症の人が増加し、本人や家族の支援は大きな課題になっています。2012年に462万人と推定されていた認知症の人数は、団塊世代が75歳以上となる2025年には700万人に増加すると見込まれています。国は、「認知症の人の意思が尊重され、できる限り住み慣れた地域のよい環境で、自分らしく暮らし続けることができる社会の実現を目指す」という考え方に基づく「新オレンジプラン」を策定するなど、認知症対策が進められています。今回は、市原市で活動している認知症カフェ「かさね」の取り組み取材しました。

### 認知症の人や家族だけでなく 市民も気軽に参加

閑静な住宅街の一角にある、敷地300坪の大きな民家。手入れの行き届いた庭の花木が落ち着いた雰囲気を作っています。認知症カフェ「かさね」は、この民家を借りて週3回（通常火・木・土）、午前10時から午後3時まで開いています。参加者は多いときで40名を超えますが、二間続きの和室とリビングは広々とし、スペースには余裕があります。

認知症カフェといっても認知症の人と家族だけでなく、さまざまな人がここを



かさねの外観

訪れます。「美味しいランチ目当てに、毎週来ているのよ」という近所のご夫婦もいれば、福祉や医療の専門職の姿もあり、近所の子もたちが祖父母と一緒に来ることも。認知症の方が率先してお茶を淹れたり、庭の手入れをしたりするので、誰が認知症の人なのか見分けがつかずません。

決められたスケジュールもなく、出入り自由なので気軽に立ち寄ることができます。初参加の人も常連の人も、お茶を飲みながら世間話をして、いつの間にか顔見知りになっているのだとか。

### メンバーの思いから生まれたカフェ



認知症カフェ「かさね」  
高橋 瑞穂さん

認知症カフェ「かさね」を立ち上げたのは平成26年2月のこと。構成メンバーは、代表を務めるケアマネジャーの高橋瑞穂さんをはじめ9名です。メンバーはもともと



ンターや病院などの専門機関につながっています。

取材日には、介護者の会「はなみずき」の定例会が行われていました。地域で10年の歴史をもつ「はなみずき」は、毎月「かさね」に集い、悩みや思いを共有するとともに、介護技術や医療の知識を学ぶ機会も作っています。

当日は講師を招いて「笑いヨガ」の教室が開かれていました。笑いヨガとは、ヨガの呼吸法と笑いの体操を組み合わせたもので、身体を動かしながら「アッハッハ」と笑うもの。最初は遠慮がちに笑っていた参加者のみなさんも、時間が経つにつれて自然と大声で笑うようになり、最後には笑うことで心地いい汗をかいていました。

「はなみずき」の会員のみなさんは「かさねはいつ来ても、あったかい雰囲気です」などと口を揃えます。

### 認知症の方も地域の方も ボランティアで大活躍

「かさね」は現在、約70名の地域ボランティアの手によって支えられています。専業主婦、定年退職した男性など年齢も立場もさまざま。ボランティアとしてランチ作りや参加者のサポート、話し相手などを務めている寺岡栄子さんは、やりがいについて、「私は普段ヘルパーとして働いています。認知症の方のケアも担当していますが、実はゆっくりお話する時間的な余裕がありません。ここではゆっくり関わることができて嬉しいです。ボランティア同士のつながりも魅



認知症カフェ「かさね」  
寺岡 栄子さん



ボランティアのみなさん（左）と手作りのランチ（右）。ランチは500円、飲み物だけは300円。飲食代が「かさね」の主な活動費になっています。

### さまざまな職種を巻き込みながら地域の誰もが参加できる場へ



認知症の人と家族の会 千葉県支部代表  
広岡 成子さん

「かさね」は代表の高橋さんの強いリーダーシップのもと、県内で最も活発に活動している認知症カフェの一つです。私も時々お邪魔していますが、初対面の人同士が気軽にお話できる雰囲気がいいですね。医療や介護・福祉などさまざまな職種の方を巻き込みながら、地域の誰もが参加できる場になっているのが「かさね」の素晴らしい点だと思います。



ボランティア  
斉藤 陽さん

私は医師から初期の認知症と診断されましたが、家に閉じこもっているのは良くないと考え、「かさね」のボランティアとして活動しています。私の役割は大きな庭の手入れ。来訪者の方が「よく手入れされた庭ですね」と言ってくださるので、やりがいを感じています。今ではここに来るのが楽しくて生きがいになっています。



認知症について正しい知識をもち、認知症の人や家族を応援する「認知症サポーター」を全国で養成しています。認知症サポーターになるには、地域や職場、学校等で開かれる「認知症サポーター養成講座」を受講してください。講座を受講すると、認知症の人や家族を支援する目印となるブレスレット、「オレンジリング」が渡されます。現在、全国で600万人以上の認知症サポーターが誕生しており、新オレンジプランでは2017年度末までに800万人の認知症サポーターを養成することを目標として掲げています。

●認知症サポーター養成講座の開催については、お住まいの市町村や地域包括支援センター等にお問い合わせください

「オレンジリング」をご存知ですか？

### 地域の人とつながり、 自分らしく暮らしたい！

人と人がつながる場として「かさね」がスタートして1年半。常連の認知症の人はどんどん主体的になり、できることを見つけて、自ら動くようになりました。ここに来ることが生きがいになっている人もいます。一般の参加者の認知症に対する理解も深まってきています。「もし自分や家族に認知症の予兆があったら、すぐここに相談します」という高齢のご夫婦もいました。

高橋さんによると、今後の課題として3つあるとのこと。1つ目は認知症サポーター養成講座を受講した人に来てもらい、認知症の方と関わりながら活動してもらおうこと。2つ目は初期の認知症の方を積極的に受け入れていくこと。3つ

目は若年認知症の方のつどいを開催すること、だそうです。

「認知症の人を地域で支えるためには、まず人と人がつながること。その土台がなければ連携もできません。ですから地域のさまざまな人がつながる、かさねのような場が必要なのです」と高橋さん。「かさね」に参加している認知症の人は、まさに住み慣れた地域で、社会とつながりながら、自分らしさを失わずに暮らしていました。

認知症カフェかさね  
住所 市原市玉前1308-2  
電話 0436-21-3733  
開催日時 通常 火曜日・木曜日・土曜日の  
10時～15時





## 小学校との共催行事で 子どもたちと地域の交流を深める

銚子市の船木地区社会福祉協議会(以下、船木地区社協)では、地元の船木小学校と共催で毎年開いてきた「福祉七夕集会」が今年で27年目を迎えました。小学校を舞台に子どもたちと地域の人が交流する事業を活発に展開し、地域全体で福祉の心を育てている船木地区社協の取り組みを紹介します。

### 子どもたちとの交流事業を展開

船木地区は銚子市の西部に位置する農村地帯で8つの町内からなります。人口は約2,400人で、高齢化率は30%を超えています。核家族の世帯は少なく、3世代同居が多く見られる地域です。船木地区社協は42名の役員で構成され、以前から銚子市立船木小学校との交流事業に力を注いできました。「福祉七夕集会」をはじめ、他にも1月の「福祉書き初めセレモニー」、10月の「秋の

日の集い」が毎年の共催行事として挙げられます。

### 毎年恒例の福祉七夕集会

体育館の天井まで届くような6本の若竹に、色とりどりの七夕飾り。今年も7月7日、船木小学校で「福祉七夕集会」が開催されました。27年続くこの行事は船木小学校の伝統となっています。

会場のセッティングと後片付けは、船木地区社協が中心になって行っています。前日、地区社協の役員が近くの山から切り出した若竹を体育館に運び込み、児童総出で飾り付け。重たい竹を起こして壁に設置するには役員数人がかり。地区社協で制作したくす玉と、子どもたちに渡す記念品も準備しました。

当日は全校児童110名と教職員、そして地区社協、老人会をはじめ、児童の保護者など合わせて70名ほどが参加。児童は1年生から6年生まで混在する8つの縦割りグループに分かれ、上級生が下級生をサポートしながらこの福祉七夕集会の準備を進めてきました。

各グループで作った巨大な短冊と、そこに込めた思いをそれぞれ発表します。「身体の不自由な人がスムーズに歩ける町になりますように」といった福祉の願いが書かれた短冊をはじめ、「校庭の遊具が増えますように」といった子どもらしい願いが書かれた短冊が体育館いっぱいに掲げられました。

福祉七夕集会が盛り上がった頃、船木地区社協の椎名登会長が藁で作った馬の人形を引いて舞台に登場。会長が子どもの頃は馬が農作業の貴重な労働力で、家族同様に大切にしていたというエピソードを披露しました。子どもたちは興味津々、地域の昔の暮らしを知る貴重なひとときとなりました。



子どもたちは椎名会長の話に夢中

それぞれ発表します。「身体の不自由な人がスムーズに歩ける町になりますように」といった福祉の願いが書かれた短冊をはじめ、「校庭の遊具が増えますように」といった子どもらしい願いが書かれた短冊が体育館いっぱいに掲げられました。

### 地域の人と笑顔のふれあい

福祉七夕集会が盛り上がった頃、船木地区社協の椎名登会長が藁で作った馬の人形を引いて舞台に登場。会長が子どもの頃は馬が農作業の貴重な労働力で、家族同様に大切にしていたというエピソードを披露しました。子どもたちは興味津々、地域の昔の暮らしを知る貴重なひとときとなりました。



船木地区社協のメンバー

続いて地域の人との「ふれあいタイム」。子どもたちは地域の人がある席を回り、まず自己紹介。そして「いまがんばっていること」や将来の夢を話してくれました。メッセージが書かれた「名刺」を渡して握手をした後は肩たたきのプレゼント。どの児童も恥じらいを見せながらも、地域の人たちと笑顔でふれあっていました。

### 福祉の心を育てていきたい

船木地区社協ではこのほかにも様々な事業を行っています。「福祉書き初めセレモニー」は児童が福祉に関する標語を自分たちで考えて書き初めし、掲示した作品を地域の人に見に来てもらうというもので、子どもたちがその標語に決めた理由や思いなどを発表する新春の行事です。「秋の日の集い」は地区社協が中心となって、あやとりや竹馬、お手玉など昔の遊びを子どもたちに教える行事。普段できない遊びを体験する貴重な機会です。子どもたちも毎年楽しみにしています。

「花いっぱい運動」も小学校の校庭の草花の管理を児童と一緒にやったことがきっかけでした。「校庭だけでなく、地域も花いっぱいしよう」という提案に大勢の人が賛同し、国道沿いなどに季節の花を植えていく事業がスタートしました。

小学校の集団登下校の「見守り活動」では、見守り活動を通じて地域の大人と子どもたちが顔なじみになり、どこで

会ってもあいさつできる関係になってきています。

### 福祉教育の指定から 連綿と続く地域での交流

これらの交流事業は、船木小学校が昭和62年に千葉県より「福祉教育推進校」の指定を受けたことがきっかけでスタートしました。「このような行事は、指定期間が終了するといつの間に立ち消えになる傾向がありますが、連綿と続いているところが素晴らしいと思います。地区社協の代々の会長さんが引き継いでくださっていることに感謝します」と、平山泰史校長は話します。

一方、椎名会長は「子どもがみんな考える福祉の標語を見ると、毎年少しずつ成長しているのがわかって嬉しく感じます。3つの事業は今後も続けていきたいですね」と話してくれました。

### 「子どもたちのために」を合言葉に

船木地区は高齢化が進んでいますが、地区社協ではあえて子どもたちのための事業に重きを置いています。いずれの事業も地域の高齢者を巻き込んだ、交流を中心に展開していることが特徴です。

「子どもたちのために」という強い思いで汗を流す地区社協のみさんは、とても生き生きと活動していました。



花いっぱい運動



銚子市立船木小学校校長  
平山 泰史 さん

地区社協との共催行事を27年間積み重ねてきて、子どもたちには人を思いやる心、高齢者にやさしく接する気持ちが育っていると感じています。今後も地域の中の学校として、地区社協のみさんにはご協力をお願いしたいと思います。



船木地区社会福祉協議会会長  
椎名 登 さん

私は平成12年に会長に就任しましたが、当時から学校が非常に協力的で、歴代の校長先生や職員の方には感謝しています。地区社協の役員も得意分野を活かして積極的に関わってくれています。今後も子どもたちとの交流を続けていきたいと思っています。

銚子市社会福祉協議会 TEL 0479-24-8189

## 住み慣れた地域で生活できるよう支援する

平成26年4月1日より、それまで旭市社会福祉協議会が広域後見支援センターとして所管していた「日常生活自立支援事業」を銚子市社協として移管を受け、事業を開始しました。\*関連記事P9下段

移管前は、通帳の管理や生活支援員からの預かり書の受領等の業務を中心とした関わりでしたが、実際にこの事業を実施して感じたことは、高齢者、知的障がい者、精神障がい者の方々への支援の難しさです。例えば、利用者や支援の内容を約束していても突然変更の申し出があったり、携帯電話をいじりすぎて高額な料金を請求された利用者もいます。精神状態が安定していないと仕事に行けないという

利用者からは、勤務日数が少なく給料が少ない場合には定期積立預金をどうしたらいいかという相談もあります。本当に相談内容は様々であり、1つの相談に1時間以上かかるものもあります。

支援を行う際は、利用者の意思を尊重し、利用者や相談しながら支援を進めることが基本です。現在専門員2名、生活支援員7名で対応していますが、最近は相談者や利用者が増える傾向にあり、生活支援員の受け持ち数が増えています。日頃利用者を訪問している生活支援員からいろいろな話があり、その内容によっては上司とも相談し、必要な場合には専門員が直接対応しています。



銚子市社会福祉協議会 宮内 基陽さん(右)と生活支援員

事業を担当する宮内基陽さんは、「この事業を利用している高齢者や障がい者の方々が、これからは銚子市で、安心して、笑顔(スマイル)で自立した地域生活を送れるよう、生活支援員とともに支援していきたいです」と思いを語ってくれました。

\*銚子市人口：66,066人 65歳以上人口：21,713人 高齢化率：32.9% (平成27年7月1日現在)



# 地域ぐるみの実践を目指して 小・中・高校と地区社協が連携して取り組む「福祉教育」



成東駅前のあいさつ運動。快活な声が響きます

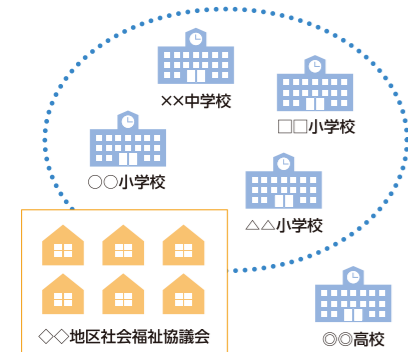
千葉県では平成19年度から、地域を基盤とした福祉教育を推進する目的で「福祉教育パッケージ指定方式」を中心にすえた福祉教育実践を展開しています。今回は、山武市における活動事例を通して、県内における福祉教育の“今”を探ります。

## 千葉県における福祉教育の推進

千葉県では昭和52年から毎年、県内の小・中・高等学校20校を「福祉教育推進校」として3年間指定し、各学校における独自の創意と計画に基づき、様々な活動を通して福祉問題に対する児童・生徒の理解と関心を高め、思いやりの心やノーマライゼーション意識の醸成に努めてきました。平成19年度からは地域とのつながりをより意識して、学校単独指定方式から、近隣の地区社協等と連携した「福祉教育パッケージ指定方式」を導入し、地域に根ざした取り組みを展開しています。

### パッケージ指定方式のイメージ図

中学校区の小・中学校と近隣の高等学校、地区社協を併せて指定



学校単独指定方式では、小学校での学びが中学校以降に活かされないという課題がありました。パッケージ指定方式では、生徒の発達段階や連続性を意識した福祉教育活動が可能となり、より実践的な活動が期待されます。

## 山武市成東中学校区の取り組み

山武市成東中学校区は平成22年度より3年間のパッケージ指定を受けました。福祉教育推進校として成東市立成東小学校、大富小学校、成東中学校、県立成東高校が指定を受け、また、成東中学校区の2つの地区社協（成東地区社協と大富地区社協）のうち、成東地区社協が「福祉教育推進団体」の指定を受けたうえで、2つの地区社協が協力する体制を築きました。ここに、山武市社会福祉協議会や山武市教育委員会等も加わって「成東地区福祉教育推進連絡会」を立ち上げ、学校と地域が互いに理解を深めながら、取り組みを進めてきたのです。

様々な活動を進める中でも特に力を入れているのが、JR成東駅前で行う「あいさつ運動」です。学期ごとに1回、連続3日間ずつ、通勤・通学の時間帯に実施しています。

「ふれあいを通してつながるまちづくり」というスローガンを掲げ、平成23年9月より始められたこのあいさつ運動は、パッケージ指定期間の終了した平成25年度以降も継続して行われ、今日に至っています。

### 参加の形はさまざま

あいさつ運動の特徴の一つとして、参加者が多いということが挙げられます。この7月2日に実施した際の参加者も、地区社協や地域住民を含めて合計112名。そのうち成東中の生徒が64名を占めています。「最初は子どもたちが参加してくれるか心配でしたが、1回目から

成東中学校の生徒さんを中心に毎回100名以上の参加がありました。うれしい限りです」と、宮野栄一会長をはじめとする成東地区社協の皆さんは笑顔を見せます。

活動を通して子どもたちは笑顔で自信を持ってあいさつできるようになり、地域の中でも互いに声掛けができる関係性が生まれてきています。

「本校では、子どもたちの健やかな育ちにおいて、あいさつを大切にしています。地域と連携してこれからも続けていきたいですね」と成東中学校の金親秀樹教頭先生は話します。また、成東小学校の中村典子先生と森川恵美子先生は「子どもたちの自信は他の活動にもつながるだろうし、これからも地域も含めた人の輪をつなげていきたいですね」と話してくれました。

当日参加者以外にも協力者が大勢います。成東中学校と成東高校の美術部がのぼり旗を作成し、成東高校の書道部が横断幕を作成。さらに高校生の有志が壁新聞で参加を呼びかけたり、今年からは美大に進学したOGがチラシのイラストを描いたり、それぞれが得意分野で活動を盛り上げています。



イラスト協力/小川恵美 (成東高校卒業生・本文中のOG)

## 平成27年度千葉県福祉教育研究大会

### 福祉教育でさまざまな人々との交流の機会を



東北福祉大学大学院教授 (公財)テクノエイド協会理事長  
 大橋 謙策氏

「平成27年度千葉県福祉教育研究大会」が8月19日、淑徳大学千葉キャンパスにて開催され、学校関係者、市町村社協、地区社協関係者など273名の参加がありました。

基調講演に東北福祉大学大学院の大橋謙策教授をお招きし、「子ども・青年の発達と福祉教育の必要性ー福祉教育の原点を問うー」をテーマにお話いただきました。

生活環境の変化により日常生活の中で人と人とが触れ合う機会が減少したことが大きな原因で、子どもたちの発達の歪み（対人関係能力や自己表現能力の不足、社会的有用感の喪失など）

が深刻な問題として生じていると指摘。そこで、「福祉教育」を通して地域で高齢者や障害者などさまざまな人々と交流する社会体験の場を提供するとともに、そうした交流を通して子どもたちが博愛や人権尊重について理解できるよう意識して取り組むことが大切であると述べられました。



多くの参加者が、講演に熱心に聞き入りました

### 活動継続の決め手は「信頼」

活動を通して、ますます地域の結びつきが強くなりました。成東高校の多田達子先生は、「パッケージ指定を受ける前は地域の小・中学校や地区社協と活動する機会がありませんでした。それが指定を通して学校と地域がつながり、一緒に活動することでさらに関係を深めることができました」と話します。山武市教育委員会の越川幸夫さんも、「指定期間が終了した後も途切れることなく続いているこのあいさつ運動がこれからも続いてほしいですね」と、地域の中で生まれたこの活動を強く後押しします。

3年間の指定は終了しましたが、あいさつ運動は今も続いています。水巻貞二会長をはじめとする大富地区社協の皆さんは、その理由について「3年間の活動のなかでお互いの信頼関係が構築できたからね」と口をそろえます。だからこそ、それぞれが忙しい中でも、「ぜひ皆でこの取り組みを続けたい」と思えたのだそうです。

### 地域に根差した活動として

山武市社協ボランティア・市民活動センターの須田高さんは、このあいさつ運動をより地域に根差した活動とするため、今年度から駅近くの方に「地域ボランティア」として運営協力を依頼しました。「これまでは関係者間の連絡調整やチラシの作成等、市社協が役割を担っていた部分も多かったのですが、「地域づくり」を目指して活動を続けるには、地域の方々为主役となった活動にしていくことが大事だと思いました」と須田さんは話します。ボランティアの金田ひで子さん、塩野と志子さんは「私たちも、熱心な皆さんと一緒にこの地域をより良くしていきたいです」と意気込みを語ってくれました。

パッケージ指定を受けてから6年目。駅前であいさつするという小さな活動が様々な人々のふれあいを生み、福祉教育実践の一つの方法として地域に根付き始めています。



成東地区福祉教育推進連絡会の皆さん。子どもたちと一緒に

## 成東駅前あいさつ運動の体験を通して感じたこと

小学五年生の時から参加し、楽しい活動だと感じていました。中学入学後も引き続き参加しています。最初は大きな声を出すのが恥ずかしかったけど、今では自然と声が出るようになりました。相手が笑顔で返してくれるのがうれしいです。



成東中学校1年 **癖藤 美礼さん**

生活委員長になって活動に参加しました。これまで4回参加しました。顔見知りの人が増えましたね。参加者を増やすため、委員会として生徒に呼びかけています。小学生の参加が少ないので、増やすための方法をいろいろと考えていきます。



成東中学校3年 **工藤 友陽さん**

知らない人にあいさつしてみたくて参加しました。思いが伝わった実感が持てました。次は3回目。みんなをリードしてあいさつしたいです。

成東小学校6年 **藤川 史帆さん**

あいさつをしていると気持ち良くなるので、この活動がどんどん広がればいいと思います。もっと気持ちの良いあいさつがしてみたいです。

成東小学校6年 **佐久間 蓮さん**

僕のあいさつで相手を笑顔にし、あいさつを返すという「勇気」を人に呼び起こさせる！そう信じて参加しています。ちょっと声が小さかったので、リベンジしたいです。

成東小学校5年 **本堂 光希さん**

自分があいさつされるとうれしかったです。あいさつした方も、された方もうれしくなると知ったので、他の人にもあいさつしてみたいと思いました。

成東小学校5年 **宮澤 一希さん**

登下校で地域の人にあいさつして、返してもらったのがうれしかったので、もっとあいさつしてみたいと思いました。積極的に自分からあいさつできるようにしたいです。

成東小学校5年 **井部 美怜さん**



学内で培った知識や経験を地域に還元して  
環境にやさしいまちづくりに貢献

URL <http://env.chiba-univ.net/> twitter <https://twitter.com/chibaiso> facebook <https://ja-jp.facebook.com/pages/千葉大学環境iso学生委員会/207720452674496>



西千葉・亥鼻地区メンバー

千葉大学は環境への取り組みに力を入れており、2004年には西千葉地区で、2007年には全学でISO14001の認証を取得しました。これは環境マネジメントシステムに関する国際規格で、環境に優しい組織運営が求められます。2013年には全国の大学に先駆けて、エネルギーマネジメントの国際規格であるISO50001の認証も取得しました。

「千葉大学環境ISO学生委員会」は、大学の一組織として組織運営の一端を担っており、その活動は多岐に渡っています。今回は地域に開かれた活動を中心に紹介します。



松戸・柏の葉地区メンバー

子どもたちと  
直接関わり、楽しみながらゴミ分別や  
リサイクルへの理解を!

地元や被災地の  
住民の皆さんとの共同作業では、  
つながりの深さを実感!

活動を通して、  
様々な人たちの笑顔や  
後輩の成長が見られるのが楽しい!

有木 元宏さん

西千葉・亥鼻地区 附属幼稚園班長  
法政経学部 法政経学科2年

濱田 裕司さん

松戸・柏の葉地区委員長  
園芸学部 園芸学科3年

久保木 美帆さん

西千葉・亥鼻地区委員長  
法政学部 総合政策学科3年

幼稚園児と交流しながら環境教育



遊みながら、  
大事なことをいっぱい学ぼう!

千葉大学環境ISO学生委員会は、2003年に発足。現在では4年生を除く約180名の学生が所属しています。学部によってキャンパスの場所が異なるため、西千葉・亥鼻地区と松戸・柏の葉地区の2つに分かれ、地域の特色に合わせて活動しています。

地域に開かれた活動として最初に紹介するのは、子どもたちに向けた環境教育の取り組みです。「附属幼稚園班」では幼稚園に出向いて啓発活動を進めています。

今年の6月には、教育学部主催の「こどもまつり」にブースを出展。リサイクルについて学んでもらうため、牛乳パックで紙すき体験を行ったり、ゴミの分別を学べるゲームコーナーを作ったりしました。「子どもたちは「紙がつくれるなんてすごいねー!」などと素直にびっくりしてくれるんです」と、附属幼稚園班長の有木元宏さんは笑顔を見せます。

環境紙芝居の読み聞かせも継続的に実施しています。力作の紙芝居に子どもたちは毎回、最後まで見入ってくれるそうです。

花と緑を使った被災地支援

松戸・柏の葉地区は園芸学部のみで構成される強みを活かして、緑化活動を中心に取り組んでいます。地元の住民の方々とガーデ

づくりを行ってきたほか、2011年には、宮城県石巻市での被災地支援のプロジェクトを立ち上げました。

今でも年に4回現地に赴いて、地域の人と一緒に仮設住宅や商店街のガーデンづくりや花植え活動を続けています。被災地の方も笑

みんなが力を合わせれば  
「できないことなんてない」って  
「できることなんていっぱいある」って  
思えるから不思議!



顔があふれ、作業が終わると  
仮設住宅に招待してお茶をご馳走してくれるのだとか。

松戸・柏の葉地区委員長の濱田裕司さんは、活動のやりがいについて「被災者の方と直接お話ができること。テレビ報道などではわからない、被災地の現状を知ることができます」と力強く話してくれました。

NPO法人格を取得し、活動が広がる

千葉大学環境ISO委員会は、2009年にNPO法人格を取得。すべての役員を学生が務める、全国でも珍しい組織が誕生しました。

学外に飛び出し、小・中学校で行う環境に関する出前授業や、企業と連携・協働して行う植樹・里山事業など、NPOとしての活



動も多岐に渡ります。

その中でも昨年特に力を入れたのが、多くの学生や地域の方の協力のもとで実施された「千葉大学マイボトルモデル事業」です。「マイボトルを利用することで、使い捨て飲料容器がどのくらい削減できるかという効果を実証する取り組みです。地元のお店の方に協力してもらい、マイボトル利用者がお店でサービスを受けられるようにするなど工夫したところ、2か月間でペットボトル458本分の削減効果が得られました」と西千葉・亥鼻地区委員長、久保木美帆さんは説明します。この事業は、マスメディアなどでも取り上げられ、学内外で反響を呼びました。

学生のみなさんがこれまで培ってきた環境マネジメントの知識や経験を広く活かしていく取り組みは、活動の幅がどんどん広がっています。



次号で3000  
千葉大生も数多く参加している団体  
ちばくりん  
にインタビューします!

九都県市合同防災訓練に  
参加しました

8月29日(土)に、佐倉市城址公園および近隣施設を会場として、「第36回九都県市合同防災訓練(千葉県会場)」が実施され、本会も「千葉県災害ボランティアセンター連絡会」会員団体として訓練に参加しました。



本訓練は、被災地・被災者対応や救援物資の輸送などの、より実践的な合同防災訓練を実施し、九都県市(埼玉県・千葉県・東京都・神奈川県・横浜市・川崎市・千葉市・さいたま市・相模原市)相互の連携協力体制の充実・強化を図ることなどを目的として実施されており、千葉県会場訓練では加えて「子ども・女性と防災」及び「市民協働と防災」の視点を踏まえた住民参加型の訓練を充実させることにより、地域住民の減災への備え等防災意識の高揚を図ることを目的としています。

千葉県災害ボランティアセンター連絡会では、災害時のボランティア活動について周知・啓発を行うために応急救援物資の受入・搬送訓練を行うとともに、佐倉市社会福祉協議会と連携して災害ボランティアセンター立ち上げ・運営訓練を実施しました。

千葉県災害ボランティアセンター連絡会会員団体

千葉県共同募金会 千葉県ボランティア連絡協議会 千葉県民生委員児童委員協議会  
千葉県レスキューサポートバイク SL災害ボランティアネットワーク  
千葉県建一般労働組合 千葉県生活協同組合連合会  
千葉県災害対策コーディネーター連絡会 日本労働組合総連合会千葉県連合会  
千葉県労働者福祉協議会 千葉県防災士会 日本赤十字社千葉県支部  
千葉県社会福祉協議会

「福祉のしごと就職フェア・in ちば」を開催しました

7月26日(日)、幕張メッセにて「福祉のしごと就職フェア・in ちば」を開催しました。今回のフェアには、県内115か所の福祉施設・事業所が参加し、1,000名を超える求人情報が出されました。また、2016年春の新卒者については、就職活動の後ろ倒しによる「採用選考8月1日解禁」のルールを踏まえた開催となりました。

当日は最高気温が35度を超える猛暑にもかかわらず、約400名の一般求職者や学生が来場しました。各面談ブースでは事業者側から熱心な説明が行われ、求職者からも仕事内容や条件等について具体的に質問している様子が見受けられるなど、外の暑さに負けず会場内は終日熱気にあふれていました。



なお、第2回のフェアを11月14日(土)に幕張メッセで開催予定です。  
【お問い合わせ先】  
千葉県福祉人材センター  
TEL 043-222-1294

社会福祉施設経営相談専門家相談カレンダー(平成27年度)

月	会計等	労務等	法律
9月	7日(月)・14日(月)	2日(水)・16日(水)	9日(水)・24日(木)
10月	5日(月)・19日(月)	7日(水)・21日(水)	14日(水)・28日(水)
11月	2日(月)・16日(月)	4日(水)・18日(水)	11日(水)・25日(水)

◎要予約。  
一般相談・予約は043-245-4450 社会福祉施設経営相談室まで

PICK UP 県社協! 千葉県後見支援センター(愛称:すまいる)ってどんなところ?



判断能力が十分でない方の生活を支援するために、日常的な金銭管理や福祉サービスを利用する際の手続きの援助等を行う「日常生活自立支援事業」をご存知ですか?

本県では、平成27年4月より県内すべての市町村社会福祉協議会において本事業を提供する体制が構築され、千葉県後見支援センター(すまいる)では、本事業の市町村社協への助言や職員向けの研修会などを実施しています。

また、本事業と密接な関係にある「成年後見制度」に関する相談や、弁護士・司法書士・社会福祉士紹介サービス、制度の周知及び利用促進を目的とした研修会なども実施しています。

権利擁護体制の充実を目指して、平成27年度から「法人後見立ち上げ支援事業」もスタートしました。親族以外の第三者後見人への需要が増加する中、県内で法人後見を実施している社協は平成27年4月1日時点で7社協となっています。公的側面を有している社協の強みを生かし、より地域に貢献できるよう「すまいる」では今後も積極的に事業を展開していきます。

成年後見制度研修会のご案内

- ◆日時 10月4日(日)午後1時~4時20分
- ◆会場 千葉商工会議所14階「第1ホール」 ◆定員 250名(申込先着順)
- ◆内容 説明「知っておきたい!成年後見制度」、寸劇「子供同士がもめてたら」、パネルディスカッション「知って活用!こんな時は成年後見制度」
- ◆申込 申込書をFAXかE-mailで送信(定員を超えた場合のみ連絡)
- ◆締切 9月25日(金)必着 ◆参加費(資料代)500円
- ◆申込・問い合わせ先 千葉県後見支援センター



後見支援センターのスタッフ

○問い合わせ先 千葉県社会福祉協議会 千葉県後見支援センター 千葉市中央区千葉港4-3(千葉県社会福祉センター2階)  
TEL 043-204-6012 FAX 043-204-6013 業務時間/月曜~金曜 8:30~17:15



# 平成27年度 第69回 赤い羽根共同募金



～地域から孤立をなくそう～

10月1日～12月31日



©L5/YWP・TX

第69回を数える赤い羽根共同募金運動が、今年も10月1日から全国一斉にスタートします。

お寄せいただいた募金は福祉施設・福祉団体、NPOやボランティア団体をはじめ、地域福祉の推進に貢献する様々な活動を支援するために使わせていただきます。

今年度から、75%近くが募金いただいた市町村で使われるようになり、ますます地域にとって身近な「赤い羽根募金」となります。共同募金は、「自分の町を良くするしくみ。」でもあります。

みなさまの善意をあたたかな真心を、これからも共同募金にお寄せください。

平成27年度目標額 7億4,000万円

赤い羽根募金	470,000,000 円
市町村歳末たすけあい募金	240,000,000 円
NHK歳末たすけあい募金	30,000,000 円

自分の町を良くするしくみ。たとえば、こんなところでも。



子育てサロン実施（市原市）



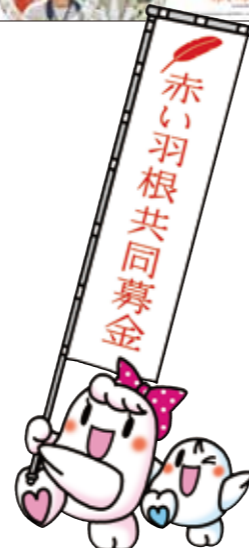
福祉バザー開催（富津市）



障害者就労施設の備品購入（八千代市）



特別養護老人ホームの備品購入（長生村）



赤いはね ちば

社会福祉法人 千葉県共同募金会 TEL: 043-245-1721 FAX: 043-242-3338  
E-Mail: c-kyoubo@akaihane-chiba.jp  
千葉県中央区千葉港4-3 http://www.akaihane-chiba.jp/

## 第5回酒々井町ふくしチャリティーパークゴルフ交流大会

- 日時: 平成27年10月3日(土)
- 場所: しすいの森パークゴルフ場(酒々井町墨1200番地)
- 対象: 一般参加: 定員180人、18歳以上で大会の趣旨に賛同いただける方(18歳未満の経験者は要相談)  
フレンドリー参加: 定員20人、初心者、高齢者、体の不自由な方など36ホールプレイするのが困難な方
- 内容: 競技内容  
一般: 36ホールストロークプレイ(男女別個人戦)  
フレンドリー: 9ホール又は特設コースを体験的にラウンド
- 参加費: 一般2,000円、フレンドリー1,500円
- 参加方法: 所定の参加申込書により9月25日(金)までに大会事務局又はしすいの森パークゴルフ場へ申し込み
- 問合せ先: <大会事務局>酒々井町社会福祉協議会  
TEL043-496-6635 FAX043-496-5245

## 第42回国際福祉機器展H.C.R.2015

- 日時: 平成27年10月7日(水)～9日(金) 10:00～17:00
- 場所: 東京ビッグサイト 東展示ホール(東京都江東区有明)
- 入場料: 無料・登録制(一部のプログラムは有料)
- 出展: 14か国・1地域の530社からの約20,000点の福祉機器を総合展示
- 問合せ先: H.C.R.2015事務局 一般財団法人保健福祉広報協会  
TEL: 03-3580-3052 FAX: 03-5512-9798  
webサイト: http://www.hcr.or.jp



## 健康と福祉のふれあいまつり(君津市)

- 日時: 平成27年10月17日(土)10:00～14:00
- 場所: 君津市保健福祉センター
- 対象: どなたでも
- 内容: 福祉活動団体のパネル展示・コンサート  
模擬店、バザー・各種相談・各種紹介 等
- 参加費: 無料
- 参加方法: 直接ご来場ください
- 問合せ先: 君津市社会福祉協議会 TEL0439-57-2250

## 10月1日現在で全国いっせいに国勢調査を行います!

- 内容: 国勢調査は、日本の人口や世帯の実態を明らかにするため、統計法の規定に基づき5年ごとに実施する国の最も重要な統計調査です。調査の結果から得られる人口は我が国の人口の基本となる法定人口として、選挙区の区割りや地方交付税の算定の基準などに利用されます。また、福祉施策や生活環境整備、災害対策など、日本の未来をつくるために欠かせない様々な施策の計画策定などに利用されます。
- 実施方法: 国勢調査は住民票などの届出に関係なく、10月1日現在、ふだん住んでいる場所で調査することになっています。社会福祉施設に入所されている方については、入所の状況に応じて、調査する場所が異なりますので、ご注意ください。
- 問合せ先: 国勢調査コールセンター  
TEL: 0570-07-2015  
IP電話: 03-4330-2015



日本国内でのボランティア活動中のケガや賠償責任を補償!!

# ボランティア活動保険

平成27年度 全国200万人加入!!

補償金額(保険金額)		Aプラン	Bプラン
ケガの補償	死亡保険金	1,200万円	1,800万円
	後遺障害保険金	1,200万円(限度額)	1,800万円(限度額)
	入院保険金日額	6,500円	10,000円
	手術保険金	入院中の手術 65,000円 外来の手術 32,500円	100,000円 50,000円
	通院保険金日額	4,000円	6,000円
	特定感染症の補償 葬祭費用保険金(特定感染症)	上記後遺障害、入院、通院の各補償金額(保険金額)に同じ 300万円(限度額)	
賠償責任	賠償責任保険金(対人・対物共通)	5億円(限度額)	5億円(限度額)

年間保険料		
タイプ	Aプラン	Bプラン
基本タイプ	300円	450円
天災タイプ(※) (基本タイプ+地震・噴火・津波)	430円	650円



ボランティア行事用保険 送迎サービス補償 福祉サービス総合補償

●お申込み、詳しい内容のお問い合わせは、あなたの地域の社会福祉協議会へ●

団体契約者 社会福祉法人 全国社会福祉協議会  
(引受幹事保険会社) 損害保険ジャパン日本興亜株式会社 TEL: 03(3593)6824

取扱代理店 株式会社 福祉保険サービス  
〒100-0013 東京都千代田区霞が関3丁目3番2号 新霞が関ビル17F  
TEL: 03(3581)4667 FAX: 03(3581)4763  
受付時間: 平日の9:30～17:30(12/29～1/3を除きます。)  
この保険は、全国社会福祉協議会が損害保険会社と一括して締結する団体契約です。

(SJK14-16220 (2015.2.6))



# 福祉の資格 と わたしの仕事



習志野市社会福祉協議会マスコット「ふくびー」

表紙の人



さえき みき  
地域支援係 佐伯 未季さん

## 社会福祉士 / 社会福祉協議会

勤務歴 10年目  
社会福祉法人  
習志野市社会福祉協議会

### ●社会福祉士を目指したきっかけは

私が高校生だった時に介護保険制度が始まり、今後は福祉関連の仕事がさらに重要度を増すと考え、福祉系の大学へと進みました。そして大学時代、都内の「ふれあい・いきいきサロン」を訪問したり、この習志野市社会福祉協議会（以下、習志野市社協）に実習生として受け入れていただいた時に、地域の方々と一緒にいきいきと働く社協職員の姿に感動し、「私も社協で働きたい!」という、強い思いを抱きました。私の場合は、社協で働くために社会福祉士を目指したとも言えますね。

### ●現在の仕事内容を教えてください

現在、地域福祉課地域支援係に在籍しています。ボランティアの協力が必要な人やボランティア活動をしたい人からの相談を受けたり、社会福祉協議会の支部活動を支援したりと、仕事の範囲は広く多岐にわたります。

### ●社協の仕事に社会福祉士の資格は役立ちますか

仕事の現場でとても役に立っています。例えば、住民の方から相談を受けた場合、その場での対応はもちろんのこと、社会福祉士として学んだ知識に基づき、その方がそこに至った背景や、さらに先までイメージしながら対応することができると感じています。

また、時々、自分の支援方法が正しいのか、自分の考え方に偏りがあるのではないかなど思い悩む時があります。そんな時は、手帳に挟んでいる「社会福祉士の倫理綱領」を読み返しています。仕事をするうえでのよりどころになっています。

### ●仕事でやりがいを感じる時は

相談者の気持ちを受け止め、その方の支援ができた時ですね。



ボランティアサークルひまわり おもちゃ図書館・おもちゃ病院の皆さんと

先日も障がいを持つお子さんがいる親御さんから「毎日子どもの通学に付き添っているが、仕事などで対応できない場合があり困っている」との相談があり、ボランティア担当としてあちこちに掛け合い、どうか付き添いを支援してくれるボランティアを見つけることができました。いろんな方の協力や連携を図りながら仕事をするところにやりがいを感じます。

### ●印象に残っているエピソード

東日本大震災の時のことになりますが、習志野市も液状化などの被害を受けました。あの時、ボランティアセンターでは約500名ものボランティアの協力により、土砂の撤去や身体の不自由な高齢者の代わりに給水車に水を受け取りに行くなど、さまざまな活動を行ったのですが、その時に強く感じたのが習志野市社協職員の団結力の強さです。もともと皆、仲の良い職場でしたが、その時は部署も役職も飛び越え、まさに全員一丸となって取り組んだという感じで、強く印象に残っています。

### ●社会福祉士を目指す読者にメッセージ

大学生の時、「社会福祉士の大きな役割は、社会が住み良くなるよう制度を変える努力をしたり、新たな仕組みを創り出すことだ」と、よく先生に言われました。大きな目標ですが、社協で働く社会福祉士には、それを達成できる可能性があります。将来、福祉関係の仕事に就きたいという人は、ぜひ、社協も選択肢に加え、実習にも参加してみてください。

### 上司から佐伯さんへのメッセージ

佐伯さんが実習生として習志野市社協に来た時から、細部に渡っているいろいろなことに気がつく人だと思っていました。それは同僚となってからも変わらず、仕事に関しては、最後まで責任を持ってやり遂げてくれる心強い存在です。これからも、公私共にどうぞヨロシク!

社会福祉法人 習志野市社会福祉協議会  
地域福祉課長補佐  
地域支援係長 杉山 啓子さん



社会福祉士  
になるためには...

社会福祉士は「社会福祉士及び介護福祉士法」で位置づけられた社会福祉業務に携わる者の国家資格です。社会福祉士になるためには、社会福祉養成校（大学、短期大学、専門学校、指定養成施設）で所定の科目を履修し、受験資格を得た上で、年1回行われる国家試験に合格する必要があります。

■問合せ先 公益財団法人 社会福祉振興・試験センター  
国家試験情報専用電話案内（音声案内）03-3486-7559 <http://www.sssc.or.jp/index.html>

### 市町村社会福祉協議会とは・・・

社会福祉法第109条に位置付けられた団体であり、地域住民や社会福祉関係者の参加により、地域福祉を推進する中核としての役割を担い、様々な活動を行っている非営利の民間組織です。

FUKUSHI-JOB SEARCH  
**福祉のお仕事**

福祉のお仕事

検索

<http://www.nw.fukushi-work.jp/>



千葉県福祉人材センター TEL.043-222-1294

